

Cグループ 歴史の発掘・保全活動

Cグループでは、シンポジウム場でいかに「河原道」の魅力を伝えれば良いか、全員であれこれ相談しながらパネルをつくっていきました。

途中、「河原道」の道筋を示す新しい資料が出てくるなど、研究活動に寄り道をしたため(?) パネル合計4枚の大まかな構成を決めて時間切れとなったので、シンポジウムの前にもう1回、有志が集まってパネルの作成を行うことになりました。

【活動プラン ～河原道の発掘と保全】

①河原道を紹介するパネル(1・2枚目)

タイトル案:「河原道を知っていますか?」

- ・ 河原道の役割や歴史的な意義を第一に伝える。
- ・ 成田参詣(江戸時代の人々の楽しみ)の道の1つであったこと、塩の道であったかも知れないことを紹介する。
- ・ 「河原の渡し」との関連を説明する必要がある。
- ・ 新旧の地図を用いて、河原道の位置や現在のまちの様子との比較ができるようにしたい。



②河原道をもっと多くの人に歩いてもらうための工夫を提案するパネル(3枚目)

タイトル案:「河原道を歩いてみませんか?」

- ・ これまで考えてきたものの中から「こんな道になったら良いな」のアイデアを紹介する。
一道標をきれいに / お店などに休憩場所を設置
一ブロック塀を杉板で修景 / 史跡になったら良いな

③今後の活動案を宣言・紹介するパネル(4枚目)

タイトル案:「河原道を一緒に考えましょう!」

- ・ 地域の方へ「情報求む!」の呼びかけを行う。
一詳しい方を紹介してください など
- ・ 今後やってみたいと思うことを紹介する。
一郷土史の授業 / 地域の方との懇談会
一まちあるきツアー / 時代祭 など
- ・ 最後に、参考文献から次の一節を紹介したい。



さて、見知らぬ土地を歩いていると、古い街道に沿って立つ家や橋の形がかわっていたり、野山の有様が一変したにせよ、道すじだけは相変わらず、何ら変わらずにそこにあるということは言いようのない嬉しさである。この足の下に江戸時代の人々が歩いた道があると考えると、いまその上を踏みしめているという喜びは格別なものがある。

この道を、あの日、あの時は誰が歩いていたのだろう。将軍が麗々しく行列を整えて通った日があった。どこの誰とも知らぬ女性が足を引きずっていたときもあった。(中略)街道・往還とはそういうものであろう。時代を重ねる人の世の流れのようなものである。これから後も、この道が、同じ道すじが残っていることを願うのみである。

—「『成田参詣記』を歩く」より